

## 麻疹(はしか)

麻疹は1984年に全国的に大流行し、その後は地域的な流行が続いています。日本では毎年10万人規模で患者さんが発生していると考えられています。この中では2歳以下が半数以上を占め、95%以上の患者さんが予防接種未接種です。

### 1. 感染経路

麻疹ウイルスが患者さんの咳やくしゃみと共に排出され、ヒトからヒトへ空気感染(飛沫核感染)します。また飛沫感染・接触感染などの感染経路をとる事もあります。

### 2. 症状

1)前駆期：感染後10～12日の潜伏期の後、38℃前後の発熱・倦怠感・上気道炎(咳・鼻水・くしゃみ)・結膜炎(結膜充血・眼脂)が出現します。また頬粘膜の紅く緑取りされた1mm程度の白色斑点(コプリック班)が特徴的です。

2)発疹期：発熱が下降した後に、再度高熱(39.5℃以上)となり発疹が出現します。発疹は耳の後ろ・首から始まり全身に広がります。発疹は鮮紅色扁平→隆起融合→暗赤色→褪色と変化します。

3)回復期：解熱し、発疹は褪色し色素沈着がしばらく残ります。

前駆期の発熱時から発疹出現後5～6日目まで感染力を持ちます。その後はヒトへの感染の心配はありません。

### 3. 重篤な合併症 (麻疹の2大死因は肺炎と脳炎です。)

1)肺炎：患者さんの4～7%程度で発生します。ウイルス性・細菌性などがあります。

2)脳炎：発疹出現後2～6日頃に1000～2000例に1例で発症します。60%は治癒しますが20～40%に中枢神経系の後遺症(精神発達遅延・痙攣・片麻痺など)が残ります。また致死率は15%と高率です。

3)亜急性硬化性全脳炎(subacute sclerosing panencephalitis：SSPE)：麻疹罹患の数年後に発症し、6～9ヶ月で死に至る予後不良な合併症です。発生頻度は10万例に1例です。

### 4. 麻疹ワクチン

今年の4月からは、麻疹・風疹混合ワクチンの2回接種となります。第1期は生後12月から24月までで、第2期は5歳以上7歳未満(幼稚園年長児)です。この時期以外の接種は自己負担となります。

日本のワクチン接種率は全国平均で80%ですが、地域によっては50～60%と低い状況にあります。麻疹ワクチンの重篤な副作用としては脳炎が100万～150万例に1例、SSPEが100万～200万例に1例と報告されています。しかし上に述べた麻疹罹患後の発症率に比べれば低く、接種率を上げる事が望ましいと思われれます。

御意見・御質問などは石巻保健所健康対策班までお願いします。 電話：0225-95-1430 FAX：0225-94-7104

もっと詳しく知りたい場合は、保健環境センターHP(<http://www.pref.miyagi.jp/hokans/>)を参照してください。